

今、サッカーのワールドカップで、日本も韓国も熱狂の渦の中にある。この文章が活字になるころはもうすべの「結果」が出ているはずだが、少なくとも、今はあるべき「結果」へ向かって、選手は頑張り、サポーターは応援しているところである。

にわかサッカーファンである私自身は、日本の第一戦は外国へ行って見られなかったし、第二戦は、ちょっと新幹線の中だったので、これまた見られなかった(じつと携帯テレビを見ていた斜め前の人が、そっと勝った、と教えてくれたが)。ああ、応援しなかった。

それでも、家に帰って、テレビを見た。「結果」が出た後のニュースであることはわかっている。その再現された画面で、思わず応援してしまつたら、不思議なものだ。

仕事の都合でビデオしか見られなかったという人もあ

を馬鹿にする権利は誰にもないはずだ。

そういえば、試合を前にしたインタビューを見ていて気が付いたことがある。選手が言う「頑張つて、結果を出したいと思います」という「結果」の意味である。選手がどう頑張ろうとはたまたまぼろつと、よほどの天変地異がない限り、「結果」は必ず出るのはないか？

そう、「ここで彼が言う」「結果」は、ひとえに「いい結果」「満足できる結果」なのである。考えてみれば、「あした天気になあれ」というのも同じで、「天気=いい天気」を表す。「結果を出す=いい結果を出す」なのだ。

それはさておき、「結果」を出したら、「結果」は出るはずである。しかし、「いい」文法上の面白問題がある。例えば中国語では、「買」三年才買到」というような言い方があるという。文字通り、「三年買つて、やっと買いつた」「すなわち」「三年たつてやっと買える」という意味だが、最初の「買」は「いい」では、「買おうとする」とを表すのだ。日本語で「買つ」と言えば、相手との間に金銭と商品の交換が成立したという結果を含むこととなる。しかし、前述の中国語の表現では、「買おうとする」と「も」買つ」に入るのである。

日本語でも、そのあたりは微妙な問題があるようだ。例えば、他動詞表現で対象を「入れる」というのは、自動詞で言い換えて、対象が「はいる」ことを必ず前提と

るだろう。そういう人は、あえて結果を聞かずに、ビデオを見ながら、ビールかなにかを片手に応援するのはないだろうか。そこにあるのは微妙なタイムラグ。他から見れば、ちょっと間抜けな図かもしれないが、それでも、やはり本人が「応援」している点に違いはない。

ある意味で、「現実」はメディアによって作られるのであって、我々が「現実」と信じているものも、実は「仮想の現実」でしかないかもしれない。同じリアルタイムの中継でも、地上波と衛星放送とでは、「三秒のずれがある」という。本当の意味での「応援」というと、現実の世界のあり方に対して働きかけなければならぬような気がするが、要は、サポーターの意識の問題であって、バーチャルな空間の「応援」でも、「応援」には違いない。録画ビデオを見ながら、「そこだーそれ行け!」と叫ぶ人

しているわけではないらしい。というのは、「荷物を箱に入れたけれど、はいらなかった」という文について、関東地方の大学生三〇〇人中七十二人が「自然」としているのである。(以上の結果合意の議論とデータは宮島達夫1994『語彙論研究』むぎ書房 による。)(この文を自然だと判定した人は、「入れようと試みる」と、「一部でも入れること」を「入れる」で表せると考えていることになるだろう。

サッカーの試合において、「結果を出す」の意味はどうだろうか。いい結果を出したが、いい結果が出なかった。などというところ、少なくとも私の語感では不自然な気がする。「いい結果を出す」ならば、「いい結果は出る」ということが成り立っていないからではないからである。

その点、少し possible の意味を込めた結果を考えると、「頑張つたが、最後までうまく頑張れなかった。」とはまだしも言えそうな気がする。「頑張る」はあくまで、その努力することの意味の中心があるのに対し、「頑張れる」は「結果として、うまく頑張れたと言える状態が実現する」ということを表すからである。努力がいつもストレートに結果に結びつくとは限らない。

勝敗は兵家期すべからず。結果は天のみぞ知る。しかし、とにかく全ての選手のみなさんが「頑張れ」ますように。そして、それぞれにいい「結果」が出ますように。